



★パソコン要約筆記者・清水美也

～プロフィール～

1972年生まれ。福祉系専門学校卒業後、精神科病院の心療リハビリセンターに勤務。その経験と、もとの文章力を生かし、2007年より要約筆記活動を始める。2008年、大阪市手書き要約筆記奉仕員、翌2009年、大阪市パソコン要約筆記奉仕員に登録。現在、要約筆記活動の傍ら、映画・DVDなどへの字幕挿入ボランティアにも携わる。

耳の不自由な方は
筆談しますので
お申し出下さい



難聴
聴覚障害のみなさまへ

要約筆記の「J」案内

パソコン

あなたの街の

楽しい不動産相談室

創業明治三十九年

株式会社 大阪屋



〒545-0034 大阪市阿倍野区阿倍野元町8-4
TEL06-6623-4100 FAX06-6623-3377

URL: <http://www.abeno-osakaya.com>

◆ 要約筆記とは

要約筆記とは、聴覚障害者に、話の内容をその場で文字にして伝える筆記通訳のことです。

「話すスピード」は「書く（入力）スピード」より数倍も速くて全部は文字化できないため、話の内容を要約して筆記するので『要約筆記』といいます。

要約筆記は、話を正確に聞き取り、要点をつかんで、短い文にまとめ、素早く書いて伝えます。しかし話はどんどん進んでいきますから、書きながら頭では次の話をまとめ、まとめながら耳はその次の話を聞いています。これを繰り返し続けていきます。

手書きの要約筆記ではOHP（オーバーヘッドプロジェクター）を使います。サングラスをかけて眼を保護した、複数のメンバーがOHPの周りに座り、会話の内容を要約したものを手書きしていきます。

◆ m(_ _)m要約筆記をご利用になる皆様へお願いm(_ _)m

人が1分間に普通の速さで話す言葉は、300～350文字とされています。
それに対して、普通の速さで書けるのは60～70文字、パソコン入力でも120～200文字です。
「聴覚障害をお持ちの方に、より多くの情報をお伝えしたい」というのは、すべての要約筆記者の願いです。ですが、話し言葉の量と書き言葉の量には大きな差があるため、一言一句をお伝えすることは困難なのです。

「せめて、話をできるだけわかりやすく、原型に近いものとしてお伝えしよう」と、私たち要約筆記者は真剣に考え、日々、自己研鑽に励んでいますので、どうかご理解とご協力をよろしく願いいたします。

◆ パソコン要約筆記とは

手書きの代わりにパソコンを使うのがパソコン要約筆記だと思って下さい。

パソコン要約筆記はパソコン字幕、パソコン通訳などとも呼ばれます。パソコンはPCとも表記されます。

最近では、パソコン要約筆記や音声認識の技術を使って、ニュースやスポーツ番組にリアルタイムに字幕をつけることも徐々に増えています。

また、パソコン要約筆記の技術を生かして、映画の字幕を制作している団体も活動しています。



◆ パソコン要約筆記の方式

1. ノートテイク方式（1人で頑張っちゃう方式）

ノートテイクとは、耳で聞いた内容を筆記者がノートに書きとって伝える方法です。

それと同じように、ノートの代わりにノートパソコンとワープロソフトを使って、1人の入力者が作業します。

パソコンの場合は字幕出力機器によって多数の人に見せることも出来ます。

2. 2人1組での連係入力方式

これが一つの理想の形と言えます。

パソコン要約筆記の専用ソフトで、もっとも一般的に使われているのが「IPtalk（アイピートーク）」ですが、このソフトを用いることにより、複数の人が共同でひとつの文章を入力して、完成させていくことができます。「1人で頑張っちゃう方式」より、多くの情報を伝えることが可能です。

